

## 2015年度取締役会の実効性評価まとめ

取締役会の実効性について、評価を実施。

代表取締役を除く取締役全員及び監査役全員に取締役会の実効性に関するアンケートを実施

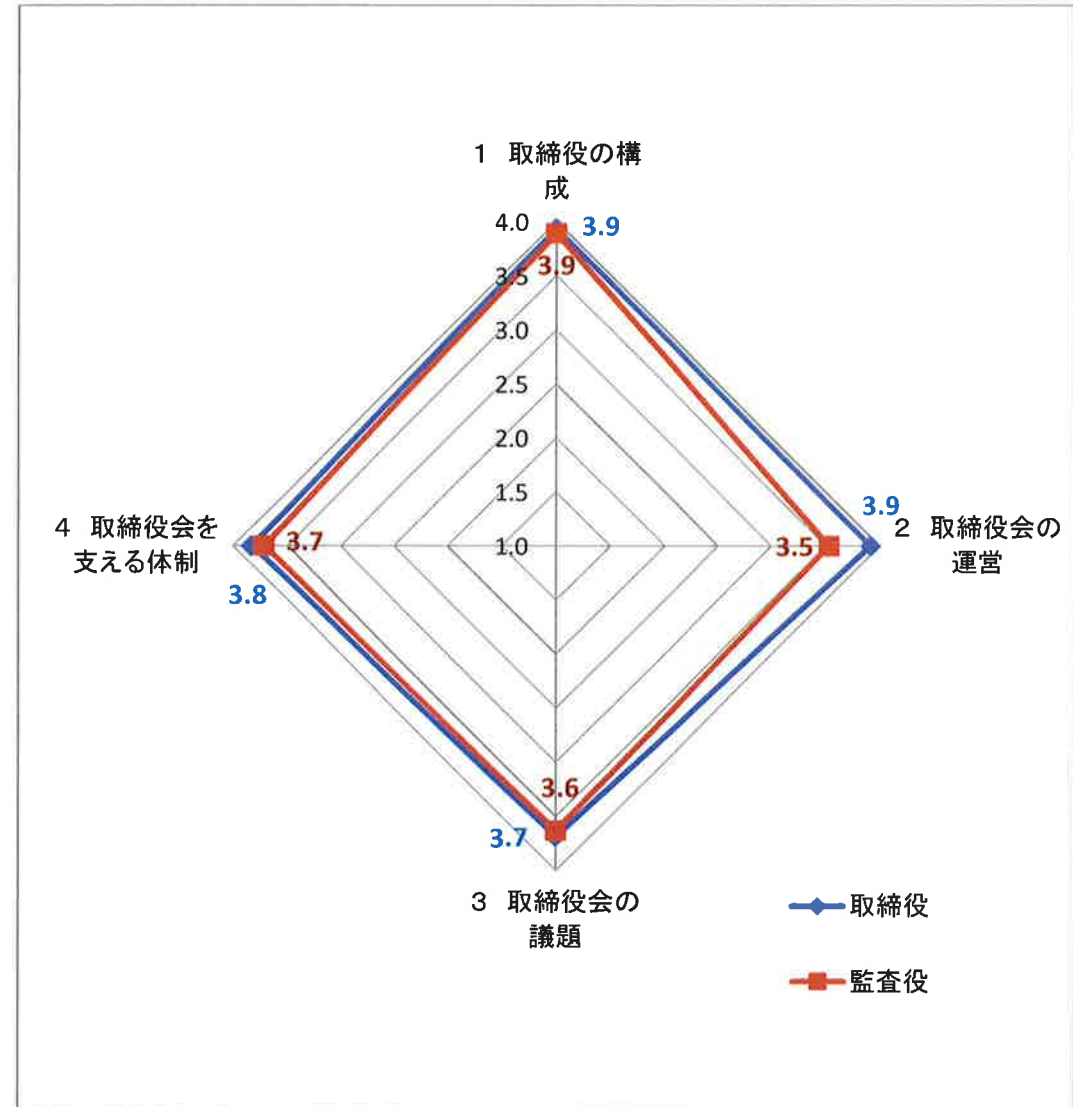
アンケート内容

1. 取締役会の構成（全体の人数、構成、多様性等）（全6問）
2. 取締役会の運営（年間スケジュール、開催頻度等）（全10問）
3. 取締役会の議題（議題の選定、内容等）（全11問）
4. 取締役会を支える体制（情報提供、連携等）（全7問）
5. その他（自由記述）

アンケートの各設問は4段階で評価し、各項目ごとに単純平均にて数値化し、レーダーチャートに記載

### 実効性評価結果

	取締役	監査役
1 取締役の構成	3.9	3.9
2 取締役会の運営	3.9	3.5
3 取締役会の議題	3.7	3.6
4 取締役会を支える体制	3.8	3.7



1 取締役の構成	取締役の構成員	構成としては現状については特に問題ないが、現在男性のみであるため、人材育成も含めて今後の課題
2 取締役会の運営	取締役会に提出される資料の検討時間	決算書は事前に郵送されるが、それ以外の資料について当日配布が多い
	取締役会における審議時間	社外取締役・社外監査役も増えており、もう少し審議時間に余裕があると、議論が深まると考えられる
・取締役会の資料、審議時間について、取締役と監査役とで評価に差が見られ、監査役より資料の事前確認、十分な審議な時間が必要との意見あり		
3 取締役会の議題	中期経営計画	中期経営計画について、現状の上積みのものであり、将来的なビジョンという点で、十分なものとはいえない
	リスク管理体制の整備・運用	リスクの評価について最低限の評価はされているが、十分議論されているとはいえないため、管理体制についても十分ではない
	主要なリスク	
	利益相反の管理	競業取引や利益相反取引に関する兼任については、事前に慎重な検討と事後の確実な手続きが必要
4 取締役会を支える体制	取締役・監査役へのトレーニングの機会提供・斡旋	取締役・監査役、双方よりトレーニングの提供等が十分行われておらず、トレーニングの機会が少ないと感じている。外部の講習の紹介等を行い、トレーニングの機会を作っていくことが必要と考えられる。

評価全体の結果としては、各取締役、監査役ともに概ね問題はないとの評価。ただし、上記の通り、各設問について今後検討すべき課題が挙げられた。

取締役と、監査役では「2. 取締役会の運営」について評価に差が見られる結果となった。事前の資料の検討時間や審議時間について監査役から検討が十分ではないのではないかと意見がある。

取締役、監査役ともに評価が低い傾向が見られる項目として、「3. 取締役会の議題」の中期経営計画、リスク管理に関する項目、「4. 取締役会を支える体制」の取締役・監査役へのトレーニングの機会提供が挙げられる。今後の課題として検討が必要と考えられる。